岩手県盛岡市

大慈寺町・鉈屋町

（キーパーソン）渡辺敏男氏（盛岡まち並み塾）

場所：まちなか（街なか）　種別：再生・保存　景観：歴（歴史を感じる）

盛岡町家の保存活動に尽力し，現在は盛岡まち並み塾の事務局長として歴史的まちなみの保存活動を進めている，鉈屋町界隈のまちづくりのキーパーソン渡辺敏男氏にお話を伺った。
盛岡市のまちづくり団体は，それぞれに深く広範囲に活動しており，いざという時に連携できるようにネットワークでつながっている。その中核を担っているのが盛岡まち並み塾である。

【キーパーソンについて】

１．まちづくりに関わるきっかけ

仕事で大学生と共に行った建物保存に関する調査

仕事の関係で大学の手伝いをしている際に，学生と共に盛岡市の建物保存に関する研究をしており，図面を描くために現地で一緒に調査を行っていた。
しかし，調査後すぐにその歴史的な町家がなくなっていくことを目の当たりにし，なんとか保存できないものかと考えるようになった。

２．活動を始めた目的

町家の保存

実際に町家に住んでいる人は，その建物が町家だとは認識しておらず，地域住民に町家の歴史的価値に気づいてもらい，まちなみを保存するために活動を始めた。

まちづくり団体について

●構成人数
20人だが，自由出入りを原則としている。
●構成年齢
平均年齢は50代を超えている。
●活動費用
・催し毎に地域住民から寄付金，参加費等を任意で徴収
・会議等での町家の利用料や町家体験宿泊料等（年間100万円程度）

１．発足のきっかけ

渡辺氏による「盛岡町家」の勉強会

「盛岡町家」についての説明を依頼され，渡辺氏が地域住民に対して勉強会を行った。
地域の歴史的資源を点検し，町家を含めた歴史的建築物とそのまちなみの保存と活用の意義を話し合い，暮らしを次世代に伝える活動が提案され，その場で「盛岡まち並み塾」が発足された。

２．活動を始めた目的

町家とその暮らしを次世代に残す

何世代にも渡って大切に維持してきた町家とその暮らしを次世代に残すため，その役割を担うのは現在の世代であるという共通認識で活動している。

３．団体の若年層

盛岡まち並み塾が統括するまちづくり団体の一部として活動

盛岡まちなみ塾は，各まちづくり団体を統括している組織であり，その中に若者が中心となって活動している「盛岡ワカものプロジェクト」がある。
盛岡まち並み塾が，時間をかけて若者たちのグループ化を育てており，盛岡まち並み塾の一部ではあるが，若者たちだけで自由に活動してもらっている。
基盤の違う団体がそれぞれに活動し，相互に連携がとれれば良いと考えている。

４．関係団体との連携方法

団体でとりまとめ

盛岡まち並み塾において，各種団体とのネットワークを構築しており，とりまとめを行っている。
共通の目標のもとに，立場，役割に応じた組織化を推進して連携によるまちづくりを進めている。
また，県内諸団体立ち上げ時に盛岡まち並み塾から役員を送り，共同代表，役員等として参加しており，幅広く連携している。

５．行政との連携方法

地域住民によるまちづくりの取り組みの結果，行政が支援

地域住民を中心に町家等と暮らし文化を活かしたまちづくりに取り組んだ結果，街並み改修助成制度の創設や旧酒蔵を活用する賑わい事業が実施された。
さらに，鉈屋町地区周辺に行政でまちづくり計画を策定し，地区計画や景観計画，都市計画道路の変更等により，歴史的なまちなみを大切にしたまちづくりを進めている。

６．その他

アメーバのような任意団体組織

まちづくり団体というと，すぐにＮＰＯ団体にしたらという声もあがるが，ＮＰＯ団体は会員が何人以上という制約があり，地域住民に会員になっていただくのは難しい。
家庭の事情もあり，今年はダメだけど来年はいいよという人もいるので，出入り自由な任意団体として進める方が，地域住民の理解も得やすく，参加しやすい。

1地域に複数団体

１地域に１つの団体でまちづくりを行うのは絶対にダメ！
商売をやっている人たちと主婦が会議を行っても話が合わない。
主婦は主婦，商売人は商売人，若者は若者，基盤が違う者はグループを分けて，それぞれが会議をしやすい団体として進め，自主的に動いてもらった方が良い。

まちづくりについて

１．まず始めたこと

・町家の見学会
・町家を見てもらうためのイベント

隣人の家など町家を見学させてもらい，町家についての知識を深めると共に，町家と暮らしについて繰り返し情報発信を行った。
ひな人形を親戚に見せていた習慣から対外的に見せるように説得し，家に訪問して見てもらうのと同時に町家の内部も見てもらえるひな祭りイベントを実施した。

２．反対者の有無

なし

地域の歴史的資源，暮らしを点検して，地域住民間の交流，共通の想いを確認しながら活動を進めたため，いい意味で自発的な活動になり，反対者はいなかった。
都市計画道路を進めていた行政，利害関係者ともぶつかることなく，歴史的建物を保存するまちづくりが地域に浸透していった。

３．まちづくりを行う上での肝

地域住民主体のまちづくり

歴史的な資源調査をもとに確かな歴史文化をあぶりだして，行政に頼らず，地域住民主体でまちづくりを行っていくこと。
まちづくりの主役は地域住民であり，誰かが突出して実施していくこともよくない。

４．利用した補助事業

・【盛岡市】盛岡市歴史的街並み整備事業補助金
（歴史的建造物の修理，建物の修景に関する補助金）
・【盛岡市】盛岡市市民協働推進事業補助金
（協働推進事業（イベント等），まちづくり施設整備に関する補助金）

５．まちづくりの過程で困難だったこと

組織のあり方

運営資金の確保や事務分担，特に団体設立当初は組織としての運営が難しい。
まちづくり団体は事務局がすごく大事で，皆年齢が50代以上だったこともあり，チラシ作成等パソコンを使った基本的な作業ができなかった。

６．結果を出すために実施したこと

・町家の勉強会
・町家に触れるイベント

盛岡町家の存在を知ってもらうために，渡辺氏自ら講演会を行ったり町家訪問を行い町家の知識を深めてもらった。
さらに，ひな人形を見てもらう習慣から同時に町家も見てもらうイベントを実施し，町家に触れる機会を設けた。

７．その他

**重要部は重伝建
周辺部はまち環**

鉈屋町のまちなみは，街並み環境整備事業（以下，まち環）により整備している。
重要伝統的建造物群保存地区（以下，重伝建）に選定された方が助成額も多く，発信力もあるが，制約が厳格になるため，使い勝手の良いまち環を利用した。
ただ，重伝建に選定されることによる外部への発信力は魅力的なため，まちの重要な部分は重伝建で，周辺部分はまち環で整備するのが良い。

ワークショップについて

１．開催について

団体立ち上げ当初は地域の人たちといかに上手く関わっていくかが重要であり，ワークショップを始める以前に，飲みに行くなどしてコミュニケーションをとっていた。
そうすることで課題を話し合う際や町家見学の際にスムーズに話が進んだ。
ただワークショップを行うだけではなく，ジャズコンサートを開催したり，植樹を一緒に行ったり，楽しく参加してもらえるような工夫をしている。

２．開催案内方法

個別案内

町家を所有している人は街道沿いに限られており，自治会単位での案内だと町家保存に関係のない人も含まれるため，個別でポスティングを行い，開催案内を行った。
町家を所有している人たちに伝わることが大切であった。

３．内容について

アドバイザー等を活用する際は，本当に内部に入ってもらえる方でないと成果を得ることが難しい（特に初動期）ため，最初はアドバイザーやコンサルタント業者は利用しない方が良い。
課題を議論する際は，行政から離れて地域住民だけで話し合うことが必要である。

まちなみについて

１．状況・規模

建物の修景目標を50軒としているが，平成26年末現在で約半分の修景を行っており，町家保存の動きは徐々に拡大している。

２．来訪者

盛岡町家のまちなみも徐々に認知され，盛岡市内観光と共に鉈屋町に訪れる人が増加しつつある。
地域の中核施設である「もりおか町家物語館」の完成により，これから発信力がさらに強くなっていくと考えている。
ただし，最初に多くの人が訪れると後から来なくなってしまうので，徐々に来訪者が増加していくことを期待している。

３．ＰＲ方法

・ホームページ
・チラシ

ホームページによるＰＲが一番効果が出ており，仙台や東京から訪れる人が半分を占めている。
「盛岡　まち」で検索すると一番に出てくるまでになっている。
小さなチラシ等も作成しているが，発信力は弱い。
鉈屋町の街並みの支持層は年齢が高く，携帯電話等を持っていないこともあり，思うようなアピールはできていない。

その他

１．まちづくりを行って変化した点

地域住民が協力的になる

最初は一人で町家の勉強から始めたまちづくりも，町家に住んでいる人たちと会話し，コミュニケーションをとり続けることで歴史的な価値に共感していただき，まちづくりに協力的になった。

２．今後の課題と展望

若者への継承

現在は各世代毎に「盛岡まち並み塾」，「盛岡ワカものプロジェクト」等の団体が共通の目標に向かってそれぞれに活動している。
まち並み塾としての活動も次世代に継承しながら，継続したまちづくりに取り組んでいきたい。

３．活動地域のＰＲポイント

町家と暮らしが根付いたまちづくり

鉈屋町は町家が暮らしと共に残ってきたまちであること。
また，行政の理解もあり，継続的な支援をしていただいている。

改修された消防番屋

（行政）盛岡市 景観政策課

盛岡市の商工観光部内に盛岡ブランド推進室が設けられ，大慈寺町，鉈屋町において，官民協働による盛岡町家を活かしたまち並みの景観保全について，積極的に取り組むこととなる。
また，時期を同じくして同地区酒造会社を営んでいた酒屋の廃業に端を発し，歴史的建造物として盛岡市の保存建造物の指定を受けていた酒蔵の保存活用の気運が，多くの市民の中で高まった。
このことから盛岡市は，「盛岡市歴史的街並み保存活用基本計画」を策定し，この計画に基づいて官民協働による盛岡市街並み保存活用推進協議会が発足し，地域の景観資源の保全と活用について一体となった取り組みが進められている。

【行政について】

１．まちづくり団体との関わり

行政会議への出席依頼

地区のまちづくりを推進する盛岡市街並み保存活用推進協議会に各団体から会員に出席していただき，地域で集約された意見として参考にしている。
また，盛岡町家等の歴史的街並みは保存だけでなく，地域住民や観光客が盛岡の暮らし文化と触れ合いながら楽しめる地域として積極的な活用を図る必要があることから，盛岡町家の修景事業の推進や賑わいを創出するイベントを地域に根付く慣わしとして，行政と地域住民の協働により開催している。

２．地域住民との合意形成を図る際の進め方

再三の意見交換

「大慈寺地区まちづくり計画」の策定は，素案の作成まで延べ11回の説明会による意見交換が行われ，この計画に基づき平成24年８月に大慈寺地区景観地区が施行された。
また，地域に残る歴史的建造物の保存については，地元住民や有識者，公募により参加した市民らによる懇話会を構成し，活用の検討から最終的な管理運営まで総合的な視野で多くの提言を市が受け，整備保存に活かされることとなった。

１．取り組み前の課題

①町家の老朽化
②道路拡幅の可能性
③行政の連携不足
④安全確保

①盛岡町家の老朽化や町家ではあるが外観の洋風化で「隠れ町家」となっているものが多く，まちなみの連続性に欠けている状態であった。
②都市計画道路により将来的に道路拡幅の計画があったため，沿道の町家で良好な保全管理がなされていなかった。
③盛岡町家や共同井戸等多くの景観資源を有する地域であったが，市役所内部の担当課がそれぞれの制度や方針で対応していたため，整備方針の統一が望まれていた。
④道路が狭く，電柱や積雪もあり，歩いてまちなみを観光するには通過交通を気にしなければならず，危険な状態にあった。

２．行政の役割

支援

景観条例の施行や都市計画道路の廃止，各種補助金事業の導入等，地域住民と合意形成を図りながら，まちづくりが行いやすいように支援を続けている。

３．まちの整備内容

観光施設及び拠点施設の整備

カフェや地場産品の店舗を併設する観光中核施設を整備することにより，歩いて楽しむまち並みを推進した。
また，地元有志によるまちづくり推進団体の拠点となる町家の整備により，地域のまち並み保全への関心をより高めた。
（整備内容）
・もりおか町家物語館（観光中核施設）
・近藤ホール｜旧近藤の酒造（保存建造物の再生）
・大慈清水御休み処（まちづくり推進団体の拠点施設）

４．まちづくりで活用した補助事業

【国土国通省】社会資本整備交付金事業（街なみ環境整備事業）

まちなみについて

１．整備後のＰＲ方法

・市有施設への解説書設置
・イベント実施

まちづくりのＰＲとしては，景観地区の解説書を地域の市有施設内（大慈寺老人福祉センター，もりおか町家物語館）に設置して周知するとともに，連絡があれば職員が伺って整備基準等の説明を行っている。
観光としては，平成24年から「旧暦の雛祭り」を実施し，道路いっぱいに人が行き交う歳時記として定着しており，多くの町家を解放することで町家に触れてもらい，まちのＰＲを行っている。

２．地域住民からの苦情

景観地区外からの転入者への周知不足

もともと居住していた地域住民に対しては，当初より丁寧かつ具体的な説明を行っていたため，景観地区指定後も苦情はない。
しかし，地区外からの転入者が土地購入する際に重要説明事項が説明不足であったり，契約時に建築制限に伴う仕様変更分を請求される等のトラブルが発生している。
防止策として，景観地区内の建築計画認定申請前に必ず事前相談を受けてもらうように呼びかけを強めている。

その後の活動

１．担い手探しへの協力

小中学生への歴史体験学習

小中学生に歴史的まち並みの修景体験を通じて，身近な景観の重要さを学習してもらい，将来の担い手を育てることを目標に活動している。
また，同地区に限定せず市内に住む青年が中心となり，平成22年に結成された「もりおかワカものプロジェクト」は，同地区でのガイドツアーや食事交流会など多岐に渡る企画運営団体として活躍している。

２．フォローアップ内容

継続補助

建物の修景やイベント実施の補助を継続して行っている。

その他

１．活動地域のＰＲポイント

かつての歴史的名残が残るまちなみ

盛岡城の東側に位置する同地区の鉈屋町界隈は，かつて奥州街道の舟橋，北上川舟運の川港が存在し，溜穀蔵として利用されていた建造物は現在も「明治橋際の御蔵」として，地域の歴史を伝える資料館として利用されているなど，藩政時代のなごりが残るまちなみとなっている。

また遠野・釜石街道，宮古街道の盛岡の玄関口として，多くの人々が往来し繁栄した場所である。

共同井戸

生活用水として利用されている湧水「大慈清水」

御蔵

江戸時代の土蔵